

1 記念館の利用の承認等に関する業務**● 来館者数の動向**

- ・ 第4四半期の来館者数は、3,409人で、前指定管理期間の同四半期来館者数平均値(5,157人)と比べ、1,748人、約33.9%の減となった。令和4年1月21日から3月21日の期間はまん延防止等重点措置が適用されたこともあり、来館者数が減少したと考えられる。しかし、前年同期の来館者数(2,445人)と比べると、964人、約39.4%の増となっており、特に展示事業における来館者数の増加が著しい結果となった。

月別来館者数:1,011人(1月)、956人(2月)、1,442人(3月)

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務**● 施設・設備の維持管理**

- ・ 通常の設備保守・点検等は適切に実施されている。
- ・ 館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。
- ・ 施設の維持管理のため、障害者用駐車場ライン引き及び情報資料室外側コーキング作業を実施した。

● 資料等の維持管理

- ・ 施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務**● 上映及び展示**

- ・ 展示事業は、12月17日から3月13日まで、企画展「崩壊と覚醒の70sアメリカ映画」と題し、ベトナム反戦と公民権運動、ウーマン・リブなどの社会変革を経て、現実社会に根ざした革新的な作品が次々と作られるようになった70年代アメリカ映画に焦点を当てた展示を実施した。1月の展示事業に係る来館者数は、前年同月比229.7%と今年度で最も高い増加率となっており、企画展が始まった12月以降も継続して高い注目を集めていたことが伺える。
また、3月18日からは、企画展「追悼・山内静夫 松竹大船撮影所物語」が始まっている。
- ・ 上映事業では、最前列を空けるトークイベントを除き、座席数を通常に戻している。映画作品と70年代アメリカの時代背景のつながりを紹介した展示内容は、来館者の作品に対する関心を高め、作品への理解を深めることができる展示解説や上映後の解説の参加につながり、満席となる日もあった。また、次世代シネマセレクションでは、国内外の映画祭で高い評価を得ている若手監督の作品を上映し、次世代の映画文化の担い手の支援につなげている。引き続き、映画作品の充実と来館者の満足度向上に努めてほしい。

● 調査、研究及び情報提供

- ・ 次期企画展示の調査研究のため、国立映画アーカイブや関係者を訪ね、資料調査及び資料下見等を行っている。
- ・ 情報資料室において映画資料や関連図書等の情報提供を行った。

● 広報及び宣伝等

- ・ 毎月の市広報に展覧会や上映内容などの情報を欠かさず掲載しているほか、市役所本庁舎内のモニターや広告パネル、鎌倉駅地下道ギャラリーも活用し、より多くの市民等に向けて広報及び宣伝等に努めた。
- ・ 企画展担当者が鎌倉エフエム、湘南ビーチFMにゲスト出演したほか、逗子文化プラザで開催された市民講座に講師として登壇するなど、更なる集客に向けた記念館の宣伝強化に努めた。

● その他の事業

- ・ 「はじめてのシナリオ教室」(全3回)を実施し、市民等がシナリオの構成について学ぶことで、映画に対する興味を深める機会を設けた。
- ・ 企画展に関連したテーマについて、ゲストによるトークイベントを2回開催した。

4 その他市長が定める業務等

● 事務処理

- ・ 例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。
1月分:2月14日、2月分:3月14日、3月分:4月14日提出

● 事故・苦情対応

- ・ 映画上映直前にパソコンの不具合が生じたため、上映開始時刻を遅らせ復旧作業を実施。→担当技師による誤操作が原因であったため、再度ベテラン技師から研修を受けることで対応。
- ・ 映像資料室内で食事をしている人がいるという連絡があったため、外での飲食をお願いする声掛けを行った。
- ・ 郵便振替での友の会入会手続きについて、施設からの受領連絡がほしい旨の意見があった。→現状では当日中に書類を発送することで対応(様子を見て対応を検討)。
- ・ 身体の不自由な方から、自身で行うチケットもぎり(新型コロナウイルス感染症拡大防止対策)について意見があったため、スタッフ内で情報共有及び柔軟な対応を行うことで調整を行った。
- ・ 映画チケットの電話予約は友の会会員に限るという電話での伝え方について苦情があったため、伝え方についてスタッフ間で検討を行った。
- ・ その他、事故や苦情等があった際には、内部で情報共有を行い、速やかに対応策を検討し、対応している。

● その他

- ・ キュレーターによる上映後の上映解説や展示解説を実施することにより、観覧者の満足度を高めるとともに、リピーターの獲得に努めている。
- ・ 青少年指導員連絡協議会や鎌倉ガイド協会との連携事業の実施、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」関連幟の掲出、鎌文ネットへの参加など、市民団体や市内文化施設との連携を深めるとともに、施設の周知・宣伝につなげている。
- ・ 全国コミュニティシネマ会議2021に参加し、全国の上映施設の状況や最新情報の把握を行っていることから、情報資料室等において会議報告書を公開するなど、市民に提供する情報資料の更なる充実に向けて検討を続けてほしい。

5 全体評価

- ・ 令和4年1月21日から3月21日まで神奈川県にまん延防止等重点措置が適用されたことから、2月の来館者数は若干の落ち込みとなったものの、前年同期の来館者数(2,445人)と比べると、964人、約39.4%の増となっている。大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送も始まり、これまで以上に鎌倉の歴史や文化に対して注目度が高まっていることから、市民をはじめ観光客や団体ツアー客へ向けた更なる記念館の周知・広報に努めて欲しい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の完全な収束はみられないものの、令和4年3月22日からまん延防止等重点措置が解除され、基本的な感染症拡大防止策を徹底しながらも日常生活へと移行していくことが求められている。子どもたちの映画への興味・関心を広げる取り組みや大学生を対象とした施設見学・職場体験の実施など、次世代の人材育成に向けた事業についても、引き続き検討を行い、幅広い層の来館者の獲得に努めて欲しい。
- ・ 施設の維持管理などの業務に関しては、日常点検をはじめ、細やかな報告が徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。

令和3年度第4四半期判定評価表

【鎌倉市川喜多映画記念館】

評価項目	判定点	第4四半期 評価結果	減点
1 利用の承認等に関する業務			
来館者数の動向			
入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか(不可抗力を原因とするものを除く)	5	○	
2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務			
施設・設備の維持管理			
定められた点検が実施されているか	5	○	
不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施しているか	5	○	
庭園、進入路などの手入れはきちんとされているか	5	○	
資料等の維持管理			
資料等の維持管理は適切に実施されているか	5	○	
3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務			
上映及び展示			
計画どおりに企画展が開催されているか	5	○	
予定どおり映画上映が実施されているか	5	○	
調査、研究及び情報提供			
映画関連資料等の調査・研究を行っているか	3	○	
研究の成果を公開しているか	3	○	
その他必要な業務			
展示・上映以外の事業は適正に実施されているか	5	○	
来館者ニーズの把握・反映につとめているか	5	○	
4 その他市長が定める業務等			
事務処理			
決められた期日までに報告書は提出されているか	5	○	
市との連絡調整はきちんとされているか	5	○	
市と協議を行った事項は確実に実施されているか	5	○	
固有の銀行口座で適正な会計処理を行っているか	10	○	
苦情対応			
来館者や近隣との間のトラブルに適正な対処をしているか	5	○	
苦情・要望への迅速な処理、市への報告はされているか	5	○	
その他			
研修等自己啓発の努力がされているか	3	○	
災害時の対応ができるよう、準備はされているか	3	○	
個人情報 は適切に管理されているか	10	○	
減点の計			0

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・×

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
16～20	10%
21～	20%